



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2014年(平成26年)10月5日号 No.1640

目次

■ ウクライナの「戦略2020」	1
■ 統計速報	4
2014年1～8月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／4	
2014年1～8月の日ロ貿易／5	
■ モスクワほっとニュース	7
古き良きモスクワの散策(1) ニコーリスカヤ通り／7	
■ エトセトラ	8
「ロシア・ロスナノ新発展戦略プレゼンテーション」のご案内／8	
■ トピックス	9
日通がロシア向け複合一貫輸送サービスを強化／9	
JICAがタジキスタン向け無償資金協力／9	

ウクライナの「戦略2020」

はじめに

ウクライナでは今般、「戦略2020」と題する国家プログラムが策定され、9月25日にP.ポロシェンコ大統領がそれを披露する記者会見をキエフで開いた。もう1年も危機に揺れ続けているウクライナであるが、果たして「戦略2020」はウクライナを安定と成長の軌道に乗せるための処方箋となりうるのだろうか？

今回の速報では、報道で伝えられている「戦略2020」の骨子をご紹介します。

8つの優先的な改革分野

ウクライナの「戦略2020」は、ポロシェンコ大統領自らが記者会見で大々的に発表を行い、大きな話題にはなっている。しかし、実を言うと、採択されたはずの文書のテキストが、まだ大統領のウェブサイト等に正式に掲載されるに至っていない(9月末現在)。若干、奇妙な状況である。

ウクライナでは、10月26日に最高会議(国会に相当)の選挙が予定されている。そして、「ポロシェンコ・ブロック」が、強力な大統領与党を形成すべく、選挙戦を戦っている(むろん大統領自身は議会選挙には出馬していないが)。「戦略2020」は、ポロシェンコ大統領の指導力を誇示することをねらって、このタイミングでぶち上げられたという印象が強く、実は国家プログラムの策定作業自体はまだ細部の詰めが終わってないのかもしれない。